

一喜一憂

「一喜一憂」

情況の変化に喜んだり、
心配したりすること

藤屋 侃士
(下松市幸ヶ丘)

No.10

アーモンドの木

中東、パレスチナ地で使うシリア方言では方で春の訪れを告げる「雨」のことも「シ花、それはアーモンドターア」と言い、冬がである。2月中旬頃に雨期であることを表し咲き始める。アーモンドの花期は、日本の桜によく似ていて、葉が出る前に、一斉に花が咲き乱れる。

地中海性気候のパレスチナは、年間降水量が500ミ程度で、山口県の約4分の1しかない。6月から9月にかけては雨が一滴も降らないのだが、冬が雨期で1月から2月は一定の降雨量がある。アラビア語で「冬」は「シターア」と言うが、パレスチナ地方

で使うシリア方言では「雨」のことも「シターア」と言い、冬が雨期であることを表しているようである。冬の雨期になると、褐色だったパレスチナの大地は、緑のじゅうたんで覆われる。そこで、アーモンドの花が桜のように咲くのだろうかとても美しい。我が家にもアーモンドの木が1本ある。私は退職の記念に植えたものなので、すでに16年が経つ。花が咲くのは3月なのだが、今年はこれまでで、最もたくさんの花が咲いた。

花が終わると、若葉

が勢いよく出てきて、枝がぐんぐん伸びる。今年には特に伸びがよくて隣家の屋根より高くなっていた。緑色のアーモンドの実もついている。パレスチナでは、未成熟の緑色のアーモンドの実を、生で塩を少しつけて食べるそう。そういえば、フィリピンでは、まだ熟していない緑のマンゴーに塩をつけて酸味を和らげて食べるというのを聞いたことがあった。同じような食べ方なのかもしれない。

アーモンドといえ、アメリカ、カリフォルニア産が有名だが、原産は中央アジア。そこから中東一帯に広がっていき、4千年以上わたって人々に食されていくという。旧約聖書にもアーモンドは出てくる。日本には、明治時代にアーモンドが入ってきたそう。しかし、アーモンドの実が成熟していく時期が梅雨に重なる日本では、ナッツとしてのアーモンドが収穫できるまでには至らず、アーモンドの木でもある。

木が定着することはなかつたようである。我が家の緑色のアーモンドの実、今年も成熟するころ落ちてしまおう。その地に合った植物ということに改めて感じさせられる。実は成らなくても我が家のアーモンドは特別な存在である。花の時期には訪れた友人が「珍しい」「美しい」と写真を撮り、話に花が咲く。また、関わり続けているパレスチナのことを思い出させてくれる、そんな木でもある。



アーモンドの花(3月)



アーモンドの実



アーモンドの木(5月)